

## 2022 年度 小委員会活動成果報告

(2023 年 2 月 5 日作成)

小委員会名	建築・空間ストック活用小委員会	主 査 名：門脇 耕三 就任年月：2022 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (設計計画・構法計画運営委員会)	委員長名：清家 剛 主 査 名：小見 康夫
設 置 期 間	2022 年 4 月 ～ 2024 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>本小委員会では、建設時の発想や最適化だけで建物、構法を捉えるのではなく、建物の利用やニーズの変化といった時間軸を踏まえて構法を捉えるとともに、建物の再生方法を研究していく。さらに、建物を取りまく住環境をどのように向上していくか、国際的に確立されたオープンビルディングの計画手法を参考に研究を展開していく。具体的には、以下の課題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期利用が可能な建物の計画／設計／施工技術の研究</li> <li>・マスハウジング期に建設された建物、及び、団地のストック活用手法と周辺エリアの住環境の再生手法の研究</li> <li>・ソーシャルハウジングの概念の再生に関する研究</li> <li>・住宅におけるカスタマイゼーション手法の体系化（新築、改修とも）</li> </ul> <p>あわせて、CIB W104（Open Building Implementation）の日本窓口として、オープンビルディングに関する研究・実績・教育の普及活動にも取り組む。</p>	
委員構成 (委員名（所属）)	委員公募の有無：有	
	主査：門脇耕三（明治大学） 幹事：土井脩史（大阪公立大学） 委員：石山央樹（大阪公立大学）、入江徹（琉球大学）、忍裕司（竹中工務店）、川口香子（椋山女学園大学）、鈴木あるの（京都橘大学）、高木淳一郎（積水ハウス）、田島則行（千葉工業大学）、戸田都生男（ものづくり大学）、西野雄一郎（大阪公立大学）、納村信之（岡山理科大学）、南一誠（奥村組）、村上心（椋山女学園大学）、連勇太郎（明治大学）	
設置 WG (WG 名：目的)		
2022 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s13/">http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s13/</a>

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	5 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p><b>目標の達成度</b> (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. オンラインによる小委員会を3回開催し、委員及びゲストスピーカーによる研究報告を行い、本賞委員会に関連するテーマについて活発なディスカッションを行うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 第2回：「海外における工業化住宅の事情について」ゲスト：小見山陽介先生（京都大学）</li> <li>➤ 第3回ゲスト：「拡張排水システムについて」ゲスト：光永威彦先生（明治大学）</li> </ul> <p>2. 本小委員会の研究テーマに関連する事例（ものづくり大学、実験集合住宅NEXT21）の視察を対面で開催することができた。</p> <p>3. 住民参加型のプロジェクトに取り組むオランダの建築家と研究交流を行うことができた。</p>
<p><b>委員会活動の問題点・課題</b></p>	<p>1. オンラインだけでなく、対面での事例視察の可能性を引き続き検討する。</p> <p>2. 小委員会の研究成果に関する情報発信。</p>